

# 名寄周辺モデル地域圏域検討会 観光ワーキングチーム

## (2)これまでの取組経緯

### 道北地域観光の課題

#### 人口定着に不利？

- ・名寄周辺地域における観光客入込数は、平成28年度で232.5万人、10年間で17%増。
- ・道内客や日帰り客の比率が高く、地域経済への波及効果が必ずしも高くない。

定住人口に加え、  
交流人口の減少も懸念

地域の魅力向上が必要！

### 既存体制の活用

・道北観光連盟や天塩川シーニックバイウェイ等が連携した観光振興を推進。

・この体制を維持しつつ課題解決のために強化していく。



宿泊につながるコンテンツ不足

自然を活用したコンテンツの発信

二次交通の未発達

ガイド等の人材不足

### 地域課題の共有

#### 世界水準の観光地形成に向けたセミナーin 名寄【WTキックオフ】(H30.11.9)

- ▶ 有識者を講師に「世界水準の観光地の形成」をテーマにセミナーを開催。
- ▶ 次の知見から、**広域連携の重要性**などについて理解を深めた。



- ・観光客にとって行政区域は関係ない。市町村域を越えて周遊を促す連携を模索すべき
- ・広域連携のためには、インバウンドの取組で協働作業の場を作り成功体験を得るのがよい
- ・小さな取組を繋ぎ、広域に滞在・交流させる受入体制や、季節ごとのモデルプランをつくるべき

H31.3.6 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

R1.6.25 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

R1.11.21 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

R2.7.31 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

R3.7.27 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

R4.11.22 : 名寄周辺モデル地域 観光WT

地域の関係者  
による議論

### 今後の展望

引き続き、  
広域連携による受入体制の  
整備と広域マネジメントの  
強化による観光振興の取組  
の継続

道北観光ブランディング  
事業\_キャッチコピー決定  
(R2)

「誘客多角化等のための滞在  
コンテンツ造成」実証事業  
(R2)

#### 道北観光のブランディング事業

「インフラを活用した地域活性化の取組」や、**コロナ禍に適合したコンテンツ造成など、新たな取組の検討・発信**

「天塩川S BW」「サイクルツーリズム」や「名寄川地区かわまちづくり」など、既存の取組の**更なる充実**

きた北海道サイクルツーリズム  
連携協議会設立 (R2~)

きた北海道R3  
観光創出事業 (H30~)

### 地域のアイデア

#### 広域連携を進め、高いレベルでの観光の実現が必要。

#### 受入体制

- ・ガイド育成
- ・二次交通不足に代わるエコ・モビリティ

#### ブランディング

- ・「日本一」を現地で食べて土産として送ってもらう流れをつくること
- ・地域資源を見つめ直し、来る人に可視化して伝えること

#### コンテンツ

- ・下川町の自然資源を活用した通年観光プロジェクト
- ・インフラ（岩尾内ダム・サルダム）を活用した地域活性化（アイスカレースル等）
- ・A T 向けコンテンツ造成
- ・名寄川地区かわまちづくり
- ・サイクルツーリズム など

